

1 市民意見交換会の結果について

No.	意 見	対応
1	新市長に代わって、現職と考えが異なる場合に、計画の見直しなどは必要になるのか。	次回の審議会で素案をまとめ、新市長にこれまでの総合計画策定の経過を説明し、現状の計画案について意見を伺う予定である。 その結果を踏まえ、変更の有無など、方向性が決まり次第、今後のスケジュールをお示しする。
2	市民意見交換会の意見の中には、早急な対応が必要そうなものが見受けられる。特に、安全に関わることなど、意見を受けて、具体的な動きがあるものはあるか。	市民意見交換会で頂いた意見は庁内で共有しているので、対応が必要と思われる個別具体的な案件については、できるものから対応していく。
3	市民意見交換会の参加者が、広報やHP等、何を見て参加したのか、傾向などは把握できているか。2月の分野別市民懇談会においては、意見交換会の反省を生かしてもらいたい。	広報やホームページを見て参加した方のほか、図書館利用者も方も参加していたので、幅広い年齢層の方に参加していただいた。 こうした状況を踏まえ、今後も多くの方が参加し、意見をいただけるよう、様々な形でご意見を伺っていく。

2 基本構想（素案）について

No.	意 見	対応
1	朝霞市の全域が「武蔵野」に分類されるわけではないため、3ページにおいては「武蔵野」ではなく、「武蔵野台地に育まれた」という表現にした方がよいのではないか。	ご意見を参考に、3ページ、「1 将来像」の1段落目の文章を「武蔵野台地に育まれた」に変更する。また、2段落目の「武蔵野の恵まれた自然環境」を「恵まれた自然環境」に変更するとともに、5ページの基本方向の文章と【政策づくりに当たって重視すべき事項】の二つ目の項目も同様に変更する。
2	3ページに「武蔵野の恵まれた自然環境」という記載があるが、今、朝霞にある自然は、単に残っているもので、何か保全活動の結果としてのものではないと思う。今後は、保全活動をしないと、それらの自然が開発され、また、農地などについても、後継者不足により、遊休農地が急増していくと思うので、それらへの対策を市としてどう考えていくかが重要なのではないか。	基本計画第5章の「みどり・景観」の中で取り組んでいく。
3	6ページに「快適に暮らせる～」という基本方向があるが、「自然と暮らしが調和した～」など、もっと自然環境を前面に出した方がよいのではないか。	自然環境については、6ページの【政策づくりに当たって重視すべき事項】における「人の暮らしと自然環境の美しさが融合した、朝霞らしい景観形成」に含まれていることから、基本方向の表現はこのままとする。

3 基本計画（素案）について

【全般】

No.	意 見	対応
1	基本計画の指標の見直しの考え方や進捗状況を知りたい。	指標の論理的整合性、指標のレベル感や分かりやすさ、目標値の適切さなどの視点から、各部会において指標の見直しを進めている。
2	ごみの分別が自治体によって異なると外国人には理解しづらいので、朝霞市の分別の仕方の理由を説明する資料を作って、自治会やマンション管理組合などを通じて配布し周知してはどうか。	ご意見として承る。

【第5章】

No.	意 見	対応
1	6ページの人中心のまちづくりについて、内容はウォーカブルについて規定しているので、タイトルとしては「楽しく回遊できるまちづくり」の方が近いのでは。また、「人中心の～」と「道路」の分野は、ウォーカブルの内容が重なっているように思う。「道路」の方に、積極的な道路空間の活用について追加してはどうか。	ご意見を参考に、中柱（3）の名称を「人中心の歩きたくなるまちづくり」とする。
2	8ページの大柱「道路交通」には、中柱で「道路」と「交通」があるが、「交通」の現状と課題や、小柱の一部説明など、「道路」の内容が含まれているように感じる。	同じ部内の道路と交通の両課が連携して施策展開しているため、現状のような記載となっているが、ご意見を参考に、分かりやすくなるよう整理を検討する。
3	8ページの(1)③の中で歩行者空間の連続性について触れられていないが、触れるべきではないか。	ご意見を参考に、中柱（2）の現状と課題に歩行空間の連続性について記載する。
4	12ページの「みどり・環境」に、代表するものとして黒目川やシンボルロード、朝霞の森があるが、朝霞市単独では難しいこともあるため、流域の他の自治体や、国などとの連携について、盛り込めないか。	特に黒目川は、過去に近隣自治体と協力し「黒目川再生丸ごとプロジェクト」を実施して、上流から下流まで遊歩道を設置した実績がある。現在実施している取組も含めて、ご意見として承る。
5	黒目川再生プロジェクトという話があったが、他自治体での事例として、行政が主導で始めたことが、市民などボランティアが引継ぎ、継続した取組になっていることがあるため、そのような方向性を目指してもらいたい。	ご意見として承る。

No.	意 見	対応
6	18ページや20ページについて、現計画と柱建てがほぼ変わっていない。下水道であれば、浸水対策、産業では、市内産業が危機的状況になっていることなど、対策について盛り込むべきではないか。	下水道については近年の局地的な豪雨の発生していることや、産業については経営者等の高齢化が進んでいることなど、現状と課題を踏まえた柱立てを検討した結果、現計画と同じ柱立てとしている。
7	19ページの浸水対策について、土砂や落ち葉等により、備えている排水機能を十分に発揮できないことがあると思う。そのような内水への対策として、市民との連携が有効ではないか。	浸水対策としては、側溝清掃を実施しているほか、ホームページで市民に落ち葉拾いの啓発をしている。今後も市民と連携し、浸水対策を進める。
8	20ページの中柱1について、外国人と空き店舗がともに増加しているのであれば、それらを連携し、異文化交流の場としても良いのではないか。	ご意見として承る。
9	21ページの中小企業の経営基盤の強化について、「中小企業」という記載に、「小規模事業者」も加えてもらいたい。	ご意見を参考に、「中小企業・小規模事業者」と記載する。
10	21ページを例に成果指標の考え方について話すと、紐づく小柱の内容を実現したときに、その成果として何が達成できるか、または実現のために何を目標とするか、という視点が必要である。事業者の給与の上昇や、企業からの税収の維持・増加、などが考えられる。	ご意見を参考に、指標を検討する。
11	22ページの中柱4について、遊休農地の増加と記載があるが、市民農園の利用希望者が多いと聞くため、市民農園として活用することはできないか。	ご意見として承る。
12	公衆トイレに関する記載がないが、どこかに位置付けた方がよいのではないか。	ご意見として承る。
13	各個別計画を所掌する審議会があると思うが、基本計画の柱建てについては、そのような審議会の意見を聴くべきではないか。	総合計画の策定に当たっては、各審議会でご頂いた意見のほか、市民団体、事業者等との意見交換の内容も踏まえて基本計画の柱立てを行っている。 その後、基本計画の検討過程で柱立てについて各審議会に説明し、意見を聴いているか、庁内に確認したい。

【第6章】

No.	意 見	対応
1	こどもの人権について、記載した方がよいのではないか。こどもの参画の機会ということも重要だと思う。	こどもの人権は、大柱1の中柱（1）の現状と課題等に含まれている。また、こどもモニター等を通じて、こどもの参画機会の充実を進めていく。
2	都市間交流を行っていると思うが、それをどこかに位置付けた方がよいのではないか。	ご意見を参考に、検討する。
3	6ページと7ページの協働の内容が薄いと思う。また、中柱の順番については、情報提供をすることで市民参画につながっていくと捉えると、今と逆の順番の方がよいのではないか。	ご意見として承る。
4	6ページの「市民参画・協働」について、様々な取組をしていることは把握しているが、「協働」の内容が薄いように感じる。	ご意見を参考に、検討する。
5	市民参加の促進に関わる指標がシティ・プロモーションの分野にも必要ではないか。目標としていくところが見えにくいため、なにか見えるようになった方がいいのではないか。	ご意見として承る。
6	市民参画の在り方については引き続き検討が必要だと考える。	市民参画の機会の充実、地域活性化、自治会活性化などにつながる方法を引き続き検討する。
7	8ページの目指す姿のためには、財政的な余裕がないと難しいと考える。経常収支比率なども指標に取り入れるとよいのではないか。	ご意見を参考に、経常収支比率を参考実績値として掲載する。
8	10ページの「デジタル化」について、指標は市民がどれだけ便利になったかということ、又は、職員の負担をどれだけ減らせたかという視点がよいのではないか。また、情報の共有が進むことで、これまでにない市民サービス(より多くの情報提供など)ができるようになった、などの視点も考えられる。	ご意見を参考に、「市民の便利さ」という視点の指標を設定する。

No.	意 見	対応
9	デジタルデバイドの問題も重要である。大学と連携し、学生や民生委員などが、高齢者のところに出向いて、リテラシーの向上を図るという取組を行っているような事例もある。	ご意見として承る。
10	12ページのシティ・プロモーションに当たっては、特にSNSに慣れている若い世代、東洋大学の学生などと連携するとよいのではないかな。	ご意見として承る。